

沖縄県本島北部地域
雇用開発計画

沖 縄 県

目 次

はじめに

I	沖縄県本島北部雇用開発促進地域の区域	1
1	対象区域	1
2	対象地域の概況	2
(1)	地域の地形等	2
(2)	地域の求職者の状況	2
(3)	人口の推移	3
(4)	事業所、従業者数の状況	4
II	労働力の需給状況及びその他雇用の動向	5
1	労働力人口	5
2	就業構造	6
3	労働力の需給状況	7
(1)	求人数	7
(2)	求職者数	8
(3)	求人倍率	8
(4)	年齢別紹介状況	9
(5)	離職者の状況	9
III	地域雇用開発の目標	10
IV	地域雇用開発を促進するための方策	10
1	地域雇用開発の促進のための措置	10
(1)	新たな雇用機会の開発の促進	10
(2)	職業能力開発の推進	10
(3)	労働力需給の円滑な結合の促進	11
(4)	各種支援措置の周知徹底	11
(5)	地域雇用開発の効果的な推進	11
2	雇用開発に資する県の取組	12
V	地域雇用開発計画期間	13

沖縄県本島北部地域雇用開発計画

はじめに

全国の雇用情勢は、持ち直しの動きが見られるものの、失業率が高水準にあるなど、依然として厳しい状況にある。

本県の平成24年度の一般有効求人倍率は0.42倍と全国平均の0.82倍と比較して非常に厳しく、また、本地域も0.39倍と雇用の回復は遅れている状況である。

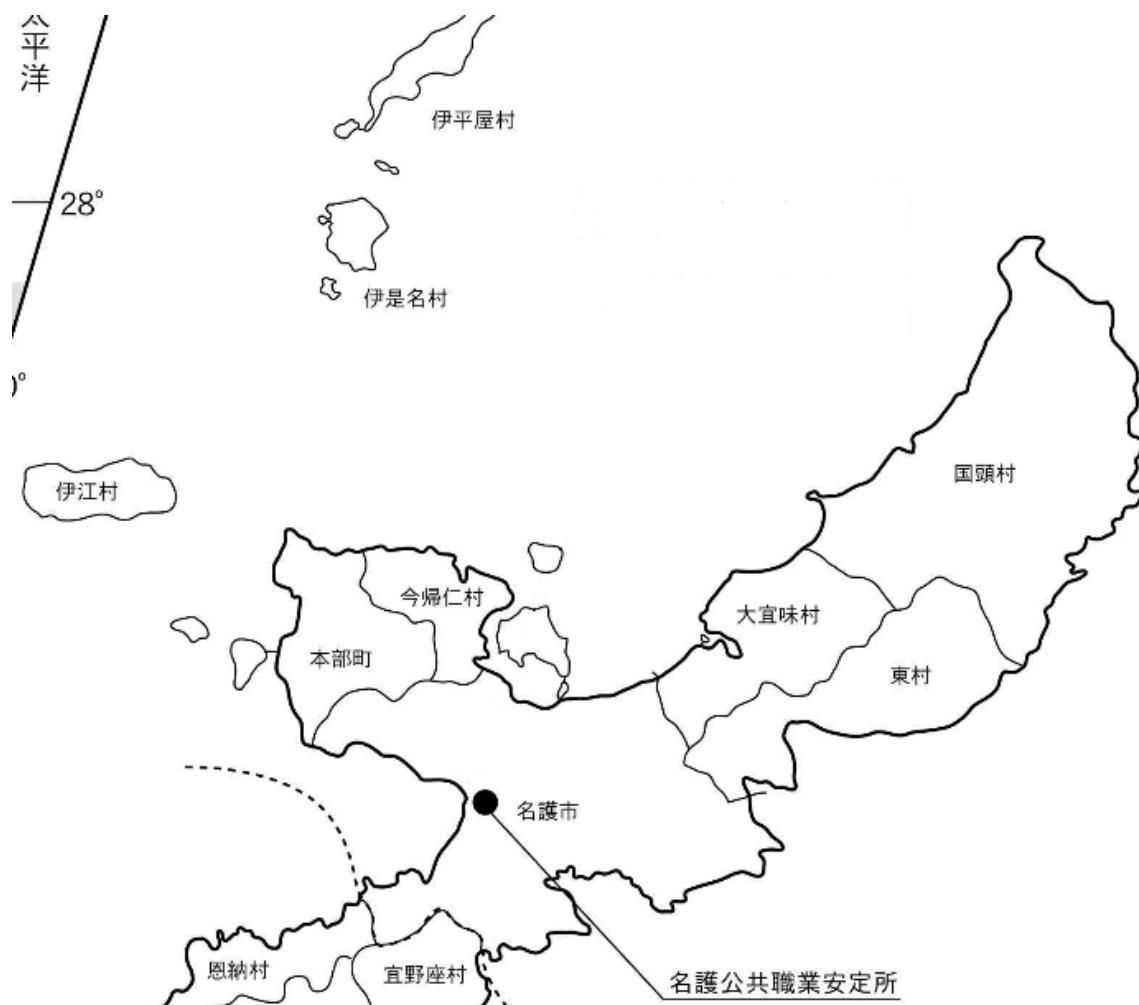
本地域は非常に厳しい雇用状況が続いていることから、「雇用開発促進地域」として地域の産業振興等により雇用機会の創出に取り組むこととし、本計画により地域の雇用情勢の現状や特性を明らかにするとともに、地域雇用開発の目標やそれを達成するための方策等を示し、今後、本計画に基づき産業施策や地域振興施策等との連携を図りながら本地域における雇用対策を推進していくこととする。

I 沖縄県本島北部雇用開発促進地域の区域

1 対象区域

本地域の区域は、次の1市、1町、7村の9市町村とする。

名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、伊江村、伊平屋村、伊是名村



2 対象地域の概況

(1) 地域の地形等

本地域は沖縄本島北部（周辺離島含む）に位置し、面積は704.06平方キロメートルと、県土の約31%を占めている。地形的には本島最高峰の与那覇岳をはじめ、山岳が連なり地域の約65%は森林、原野が占め、農用地と併せて約76%は自然的土地利用となっている。交通については、地域の中心都市である名護市を起点としてバスが運行されており、本島にある6市町村は自動車ですぐの交通圏にある。また、離島の伊江村、伊平屋村及び伊是名村については、航路で30分～1時間20分の位置にある。

(2) 地域の求職者の状況

①一般有効求職者数

最近3年間における本地域の一般有効求職者数は、月平均で2,569人となっている。

また、最近1年間でみると、平成24年4月の2,800人から12月には1,925人と減少していたものの、平成25年3月には2,279人と増加傾向となっている。

②労働力人口に対する一般有効求職者数の割合

平成22年国勢調査における本地域の労働力人口に対する最近3年間における本地域の一般有効求職者数の月平均値の割合は5.4%で、同期間における全国平均値（4.0%）を上回っており、地域内に居住する求職者の割合が高い状況にある。

③一般有効求人倍率

最近3年間における本地域の一般有効求人倍率の月平均値は0.33倍となっており、同期間における全国平均値（0.69倍）及び県平均値（0.34倍）を下回っている。

また、年度ごとで比較すると、平成24年度は0.39倍と平成23年度の0.31倍から改善しているものの、全国平均（0.69倍）は大幅に下回っている。

表1 最近3年度の一般有効求職者数の推移（学卒を除き、パートを含む）

公共職業安定所名		平成22年度	平成23年度	平成24年度	3年間 平均値
名護	年	30,954	33,663	27,861	30,826
	月平均値	2,580	2,805	2,322	2,569
前年度比		4.6	8.8	▲17.2	—

資料：沖縄労働局

表2 最近1年間の一般有効求職者数の月平均値（臨時・季節、日雇、学卒を除き、パートを含む）

公共職業安定所名	H24年4月	H24年5月	H24年6月	H24年7月	H24年8月	H24年9月	H24年10月
名護	2,800	2,778	2,614	2,530	2,351	2,219	2,192
	H24年11月	H24年12月	H25年1月	H25年2月	H25年3月	合計	平均
	2,052	1,925	2,022	2,099	2,279	27,861	2,322

資料：沖縄労働局

表3 労働力人口に対する最近3年度の一般有効求職者数の月平均値の割合

公共職業安定所名		H22 年度	H 23 年度	H 24 年度	3年間 平均値
名護	一般有効求職者数	30,954	33,663	27,861	30,826
	月平均①	2,580	2,805	2,322	2,569
	労働力人口②	47,985			—
	割合(①/②)	5.4%	5.8%	4.8%	5.4%
県全域	一般有効求職者数	467,690	517,484	424,325	469,833
	月平均①	38,974	43,124	35,360	39,153
	労働力人口②	650,307			—
	割合(①/②)	6.0%	6.6%	5.4%	6.0%
全国	一般有効求職者数	31,956,763	30,736,101	28,927,445	30,540,103
	月平均①	2,663,064	2,561,342	2,410,620	2,545,009
	労働力人口②	63,699,101			—
	割合(①/②)	4.2%	4.0%	3.8%	4.0%

資料:H22 国勢調査、沖縄労働局

表4 最近3年間の一般有効求人倍率の月平均値(学卒を除き、パートを含む)

公共職業安定所名		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	3年間 平均値
名護	有効求職者数①	30,954	33,663	27,861	30,826
	有効求人数②	8,754	10,402	10,843	10,000
	有効求人倍率②/①	0.28	0.31	0.39	0.33
県全域	有効求職者数①	467,690	517,484	424,325	469,833
	有効求人数②	146,168	158,660	179,078	161,152
	有効求人倍率②/①	0.31	0.31	0.42	0.34
全国	有効求職者数①	31,956,763	30,736,101	28,927,445	30,540,103
	有効求人数②	17,782,509	20,900,921	23,747,634	20,810,355
	有効求人倍率②/①	0.56	0.68	0.82	0.69

資料:沖縄労働局

(3) 人口の推移

平成22年の国勢調査では、本地域の人口は101,272人で、県人口に占める割合は7.3%となっている。平成17年と比較すると1.2%減少している。

表5 人口の推移(総数)

地域	H7年	H12年	H17年	H22年	増減率(H17-22)
北部	98,034	100,132	102,483	101,272	▲ 1.2
	(7.7%)	(7.6%)	(7.5%)	(7.3%)	
県計	1,273,440	1,318,220	1,361,594	1,392,818	2.3

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査(年齢不詳を含む)

(4) 事業所、従業者数の状況

①事業所、従業者数

本地域には平成24年現在で4,806事業所あり、県全域に占める割合は7.6%となっている。また、平成21年と比較すると5.9%の減少となっている。

従業者数は平成24年現在で34,291人となっており、県全域に占める割合は6.6%となっている。また、平成21年と比較すると0.4%の減少となっている。

表6 事業所数の推移

地域	H16年	H18年	H21年	H24年	増減率(H21-24)
北 部	5,018	5,042	5,106	4,806	▲5.9
	(7.6%)	(7.2%)	(7.4%)	(7.6%)	
県 計	65,609	69,997	68,543	63,060	▲8.0

※()の数値は県計に占める割合

資料:事業所・企業統計、H24経済センサス

表7 従業者数の推移

地域	H16年	H18年	H21年	H24年	増減率(H21-24)
北 部	31,209	32,484	34,437	34,291	▲0.4
	(7.0%)	(6.6%)	(6.7%)	(6.6%)	
県計	447,408	491,290	517,580	517,336	▲0.05

※()の数値は県計に占める割合

資料:事業所・企業統計、H24 経済センサス

②産業別事業所、従業者数

産業別の事業所数及び従業者数を平成24年でみると、事業所は第二次、第三次産業で98.4%を占め、そのうち第三次産業86.7%、第二次産業11.7%となっている。

また、従業者数では、第二次、第三次産業で、97.9%を占め、そのうち第三次産業は、81.6%、第二次産業16.3%となっている。

表8 産業別事業所数

地域	全産業	第一次産業	(①+②)	第二次産業①	第三次産業②
北 部	4,806	76	4,730	563	4,167
構成比	100.0%	1.6%	98.4%	11.7%	86.7%
	(7.6%)	(22.2%)	(7.5%)	(7.6%)	(7.5%)
県計	63,060	343	62,717	7,371	55,346
構成比	100.0%	0.5%	99.5%	11.7%	87.8%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H24 経済センサス

表9 産業別従事者数

地域	全産業	第一次産業	(①+②)	第二次産業①		第三次産業②	
北部	34,291	705	33,586	5,590	27,996		
構成比	100.0%	2.1%	97.9%	16.3%	81.6%		
	(6.6%)	(24.8%)	(6.5%)	(7.7%)	(6.3%)		
県計	517,336	2,838	514,498	72,820	441,678		
構成比	100.0%	0.4%	99.5%	14.1%	85.4%		

※()の数値は県計に占める割合

資料:H24 経済センサス

II 労働力の需給状況及びその他雇用の動向

1 労働力人口

平成22年の国勢調査では、本地域の労働力人口は47,985人で、県全域の労働力人口に占める割合は7.4%となっている。また、平成17年と比較すると、県全体では増加している中、減少している。

そのうち、就業者数は42,530人で、平成17年から0.3%減少している。また、完全失業者数は5,455人で、平成17年から12.3%と大幅に減少している。そのため、完全失業率は12.7%から11.4%に改善しているが、依然として、雇用環境は厳しい状況である。

表10 労働力人口の推移(全数)

地域	労働力人口		増減率	就業者数		増減率	完全失業者数		増減率	完全失業率	
	H17	H22		H17	H22		H17	H22		H17	H22
北部	48,874	47,985	▲1.8%	42,652	42,530	▲0.3%	6,222	5,455	▲12.3%	12.7%	11.4%
	(7.7%)	(7.4%)		(7.6%)	(7.4%)		(8.3%)	(7.6%)			
県計	635,849	650,307	2.3%	560,477	578,638	3.2%	75,372	71,669	▲4.9%	11.9%	11.0%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査

表11 労働力人口の推移(15~64歳以下)

地域	労働力人口		増減率	就業者数		増減率	完全失業者数		増減率	完全失業率	
	H17	H22		H17	H22		H17	H22		H17	H22
北部	44,787	44,320	▲1.0%	38,773	39,135	0.9%	6,014	5,185	▲13.8%	13.4%	11.7%
	(7.5%)	(7.3%)		(7.4%)	(7.2%)		(8.3%)	(7.6%)			
県計	598,000	610,487	2.1%	525,198	542,006	3.2%	72,802	68,481	▲5.9%	12.2%	11.2%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査

表12 労働力人口の推移(65歳以上)

地域	労働力人口		増減率	就業者数		増減率	完全失業者数		増減率	完全失業率	
	H17	H22		H17	H22		H17	H22		H17	H22
北部	4,087	3,665	▲10.3%	3,879	3,395	▲12.5%	208	270	29.8%	5.1%	7.4%
	(10.8%)	(9.2%)		(11.0%)	(9.3%)		(8.1%)	(8.5%)			
県計	37,849	39,820	5.2%	35,279	36,632	3.8%	2,570	3,188	24.0%	6.8%	8.0%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査

2 就業構造

平成22年の国勢調査では、本地域の就業人口は43,036人で、県全域に占める割合は7.7%となっている。

産業大分類別に見ると「第1次産業」が15.5%、「第2次産業」が17.1%、「第3次産業」が66.3%を占めている。

表13 産業別就業人口

地域	総数	第1次産業	構成比	第2次産業	構成比	第3次産業	構成比
北部	43,036	6,669	15.5%	7,358	17.1%	28,544	66.3%
	(7.7%)	(19.7%)		(8.0%)		(6.7%)	
県計	559,649	33,879	6.1%	92,209	16.5%	424,843	75.9%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査(総数は分類不能の業種を含む)

第1次産業の就業人口は6,669人で、そのうち91.2%が「農業・林業」に従事している。

第2次産業の就業人口は7,358人で、そのうち66.6%が「建設業」に従事している。また、県全域に占める割合では、鉱業が41.3%と高く、製造業も8.0%を占めている。

第3次産業の就業人口は28,544人で、「卸売・小売業」に従事している者が最も多く、次いで「サービス業」「医療、福祉」の順となっている。

表14 第1次産業就業人口

地域	総数	農業・林業	構成比	漁業	構成比
北部	6,669	6,085	91.2%	584	8.8%
	(19.7%)	(19.7%)		(19.1%)	
県計	33,879	30,829	91.0%	3,050	9.0%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査

表 15 第2次産業就業人口

地 域	総数	鉱業	構成比	建設業	構成比	製造業	構成比
北 部	7,358	126	1.7%	4,897	66.6%	2,335	31.7%
	(8.1%)	(41.3%)		(7.8%)		(8.0%)	
県 計	91,358	305	0.3%	62,826	68.8%	29,078	31.8%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査

表 16 第3次産業就業人口

地 域	総数	電気・ガス・熱供給	構成比	情報通信	構成比	運輸業	構成比	卸売・小売業	構成比	金融・保険業	構成比	不動産業	構成比
北 部	28,544	186	0.7%	243	0.9%	1,478	5.2%	5,366	18.8%	335	1.2%	393	1.4%
	(6.7%)	(5.7%)			(2.3%)		(5.2%)		(5.5%)		(3.0%)		(3.8%)
県 計	424,843	3,249	0.8%	10,571	2.5%	28,285	6.7%	96,697	22.8%	11,328	2.7%	10,460	2.5%
地 域		飲食店、宿泊業	構成比	医療、福祉	構成比	教育、学習支援	構成比	複合サービス	構成比	サービス業	構成比	公務	構成比
北 部		4,693	16.4%	5,146	18.0%	2,759	9.7%	852	3.0%	5,276	18.5%	1,817	6.4%
		(9.5%)		(8.6%)		(8.9%)		(14.1%)		(5.9%)		(5.6%)	
県 計		49,292	11.6%	59,908	14.1%	31,072	7.3%	6,061	1.4%	89,628	21.1%	32,616	7.7%

※()の数値は県計に占める割合

資料:H22 国勢調査

3 労働力の需給状況

(1) 求人数

最近3年間における本地域の一般有効求人数の月平均値は833人である。年度ごとで比較すると、24年度は904人で平成23度867人からやや増加している。また、最近1年間でみると、平成24年4月の1,067人から10月には766人と減少に転じていたものの、平成25年3月には1,154人と増加傾向となっている。

表 17 最近3年間の一般有効求人数の月平均値(学卒を除き、パートを含む)

公共職業安定所名		平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	3年間 平均値
名護	年	8,754	10,402	10,843	10,000
	月平均値	730	867	904	833

資料:沖縄労働局

表 18 最近1年間の一般有効求人数の月平均値(臨時・季節・日雇、学卒を除き、パートを含む)

公共職業安定所名	H24年4月	H24年5月	H24年6月	H24年7月	H24年8月	H24年9月	H24年10月
名護	1,067	917	902	940	869	857	766
	H24年11月	24年12月	H25年1月	H25年2月	H25年3月	合計	平均
	800	785	847	939	1,154	10,843	904

資料:沖縄労働局

(2) 求職者数

最近3年間における本地域の一般有効求職者数は、月平均で2,569人となっている。

平成24年度は2,322人で平成23年度と比較すると17.2%減少している。

また、最近1年間でみると、平成24年4月の2,800人から12月には1,925人と減少しており、平成25年3月は2,279人と再び増加傾向となっている。

表1（再掲）最近3年度の一般有効求職者数の推移（学卒を除き、パートを含む）

公共職業安定所名		平成22年度	平成23年度	平成24年度	3年間 平均値
名護	年	30,954	33,663	27,861	30,826
	月平均値	2,580	2,805	2,322	2,569
前年比		4.6	8.8	▲17.2	—

資料:沖縄労働局

表2（再掲）最近1年間の一般有効求職者数の月平均値（臨時・季節・日雇、学卒を除き、パートを含む）

公共職業安定所名	H24年4月	H24年5月	H24年6月	H24年7月	H24年8月	H24年9月	H24年10月
名護	2,800	2,778	2,614	2,530	2,351	2,219	2,192
	H24年11月	H24年12月	H25年1月	H25年2月	H25年3月	合計	平均
	2,052	1,925	2,022	2,099	2,279	27,861	2,322

資料:沖縄労働局

(3) 求人倍率

最近3年度における本地域の一般有効求人倍率の月平均値は0.33倍となっており、同期間における全国平均値（0.69倍）及び県平均値（0.34倍）を下回っている。

また、最近10年間の一般有効求人倍率の推移をみると、平成16年度までは、改善傾向であったが、平成17年度から悪化し、厳しい雇用状況となっていた。平成22年度からは改善の傾向にある。

表4（再掲）最近3年度の一般有効求人倍率の月平均値（学卒を除き、パートを含む）

公共職業安定所名		平成22年度	平成23年度	平成24年度	3年間 平均値
名護	有効求職者数①	30,954	33,663	27,861	30,826
	有効求人数②	8,754	10,402	10,843	10,000
	有効求人倍率②/①	0.28	0.31	0.39	0.33
県全域	有効求職者数①	467,690	517,484	424,325	469,833
	有効求人数②	146,168	158,660	179,078	161,152
	有効求人倍率②/①	0.31	0.31	0.42	0.34
全国	有効求職者数①	31,956,763	30,736,101	28,927,445	30,540,103
	有効求人数②	17,782,509	20,900,921	23,747,634	20,810,355
	有効求人倍率②/①	0.56	0.68	0.82	0.69

資料:沖縄労働局

表 19 最近10年間の一般有効求人倍率(学卒を除き、パートを含む)の推移

公共職業安定所名	H15年度	H16年度	H17年度	H18年度	H19年度	H20年度	H21年度	H22年度	H23年度	H24年度
名護	0.41	0.42	0.38	0.38	0.40	0.33	0.25	0.28	0.31	0.39
県平均	0.36	0.42	0.43	0.45	0.42	0.35	0.28	0.31	0.31	0.42

資料:沖縄労働局

(4) 年齢別紹介状況

本地域の平成24年度の年齢別常用紹介状況をみると、最も多い層は「35歳未満」の若年者で構成比は43.5%となっている。次いで、「45～65歳」「35～45歳」「65歳以上」の順となっている。

表 20 年齢別常用紹介状況(平成24年度)

	紹介件数(常用)			
	名護		県全域	
35歳未満	12,108	43.5%	181,597	42.9%
35～45歳	5,963	21.4%	101,879	24.1%
45～65歳	9,298	33.4%	132,032	31.2%
65歳以上	447	1.6%	7,424	1.8%
計	27,816		422,932	

資料:沖縄労働局

(5) 離職者の状況

本地域の平成24年度の雇用保険資格喪失者数は4,241人で、そのうち解雇された者は305人であり、県全域に占める本地域の雇用保険資格喪失者数の割合は5.4%となっている。

また、平成21年度と平成24年度を比較すると、雇用保険資格喪失者数は増加しているが、事業主の都合による解雇者数は減少している。

表 21 雇用保険資格喪失者数及び事業主の都合による解雇者数

公共職業安定所名	雇用保険資格喪失者	H18年度	H21年度	H24年度
名護	総数	3,879 (5.5%)	3,803 (5.9%)	4,241 (5.4%)
	うち事業主都合による解雇者数	947 (5.2%)	472 (2.8%)	305 (1.4%)
県計	総数	69,995	64,418	78,960
	うち事業主都合による解雇者数	7,959	5,976	5,328

※()の数値は県計に占める割合

資料:沖縄労働局

Ⅲ 地域雇用開発の目標

本地域は貴重な動植物が生息する地域で豊かな自然が残されていること等もあり、これまで農林水産業、観光・リゾート産業を中心とした産業の振興が図られてきたが、平成24年度を初年度とした10年間の本県の振興策となる「沖縄21世紀ビジョン基本計画」や「沖縄県北部地域の振興に関する方針」に基づく施策や事業等により、情報通信関連企業等の立地が促進され、新たな産業の振興が図られているところである。

本地域においては、引き続き「沖縄21世紀ビジョン基本計画」に基づく施策や北部振興事業等により、情報通信関連企業や金融関連企業等の立地を促進するとともに、豊かな自然や地域資源を活用したエコツーリズム等の体験・参加型観光や健康保養をテーマとした滞在型観光等を促進して観光産業の振興を図ることとあわせて、豊かな自然と調和した多彩な農林水産業の振興を図ることにより、雇用機会の創出、増大を促進する。

また、これらの産業振興施策とあいまって、各種雇用関連助成金の活用促進や事業主への情報提供等により雇用機会の創出を促進するとともに、地域の産業を担う人材の育成・確保を進め、求人情報等を地域の求職者に幅広く提供すること等により就職活動の円滑化を図る。

このような情報通信関連産業、観光関連産業等を中心とする産業振興策を促進することにより、本地域において新たな雇用を1,400人規模で創出することを目標とする。

Ⅳ 地域雇用開発を促進するための方策

1 地域雇用開発の促進のための措置

(1) 新たな雇用機会の開発の促進

①沖縄県産業・雇用拡大県民運動の推進

雇用情勢を全国並みに改善するため、行政による産業・雇用の拡大につながる施策実施と併せて、県民各層の関心を喚起し、企業、学校・教育機関、家庭・地域社会、マスメディア、行政機関等各主体がそれぞれの役割のもと具体的な行動を促す県民運動を展開する。

②市町村等による自発的雇用創出の促進

実践型地域雇用創造事業等を活用して、地域の特性を生かした重点分野における雇用創造に向けた市町村等の自発的な取組を促進し、雇用機会の創出・増大を図る。

③助成金等の活用による雇用創出の促進

沖縄若年者雇用促進奨励金を含めた地域雇用開発助成金等各種助成金、中小企業労働力確保法に基づく助成制度等を活用して、創業資金の助成、設備投資の奨励措置等を行うことで起業・創業、事業拡大等に伴う雇用の場の確保を促進する。

また、特定求職者雇用開発助成金等の助成制度の活用を促進し、母子家庭の母等や障害者、中高年齢者等の就職困難者の雇用の場の確保を促進する。

(2) 職業能力開発の推進

①名護市産業支援センターや民間教育訓練機関等を活用して産業界のニーズに応える人材の育成・確保に努めるとともに、沖縄工業高等専門学校において高度なグローバル化・IT化に対応できる創造性溢れる実践的技術者を育成する。

②従業員を対象とした職業訓練を実施する事業主を支援するため、認定職業訓練助成事業費補助金、キャリア形成促進助成金等各種助成金の活用を促進するとともに、沖縄北部雇用能力開発総合センターの利活用を進める。

③離転職者を対象とした職業訓練については、公共職業安定所等との連携の下、公共職業能力開発機関において訓練を行うとともに、民間教育機関等を活用した委託訓練を機動的に実施する。

④実践型地域雇用創造事業等を活用して、地域の特性を生かした重点分野における人材育成・能力開発に向けた市町村等の自発的な取組を促進する。

⑤情報通信産業、金融関連産業、観光関連産業等の県の重点分野の産業振興のために産学連携による人材育成を支援する。

(3) 労働力需給の円滑な結合の促進

①求職者に対する職業指導・相談等や事業主に対する指導・援助を公共職業安定所と連携して行う。

②高校生・大学生等を対象に、企業でのインターンシップの実施を促進するとともに、合同企業説明会・面接会を開催し、新規学卒者の職業観の育成や就職を支援する。

③沖縄県キャリアセンター（ジョブカフェ）において、また各高校・大学における専任の就職支援コーディネーターの配置により、若年者に対するキャリアカウンセリング（就職相談）や就職活動に関する知識やスキルを提供するセミナー等を実施し、職業観の育成から就職までを一貫して支援する。

④地域巡回密着型の合同企業説明会・面接会等を開催し、地域雇用の掘り起こしや、マッチングを促進し、求人側・求職者双方にきめ細やかな支援を行う。

(4) 各種支援措置の周知徹底

地域雇用開発を促進するために講じられる各種支援措置について、事業主や求職者に対し周知徹底を図るため、国や関係機関と連携を図り、ホームページでの掲載やパンフレットの配布、広報誌を活用した広報・啓発活動を行うとともに、国や県等の公的団体が実施している雇用支援制度の情報を一元化して巡回相談を開催するなど、当該措置の積極的な活用に努めていく。

(5) 地域雇用開発の効果的な推進

地域雇用開発を効果的に推進していくためには、国・市町村・経済団体・労働団体等の関係者が共通認識を形成することが重要であることから、これら関係者で構成される沖縄県産業・雇用拡大県民運動推進本部会議等の活用を努め、意思疎通を図りながら、その意向が反映されるように配慮する。

2 雇用開発に資する県の取組

① 沖縄振興特別措置法の特別措置等を活用した地域産業の振興

沖縄振興特別措置法に基づく情報通信産業振興地域制度や金融業務特別地区制度等の特別措置による各種優遇措置等を活用した企業の立地を促進し、雇用機会の創出・増大を図る。

(ア) 情報通信産業振興地域制度の税制優遇措置や通信コスト低減化支援策等の活用を促進することなどにより、情報通信関連産業の集積・高度化を図る。

また、情報通信産業特別地区においては、情報通信関連産業の集積の誘因となる情報中枢機能を有するデータセンター等の立地を促進する。

(イ) 金融業務特別地区の税制優遇措置等の制度の活用を促進するとともに、新たなビジネスの創出を支援し、金融関連産業の集積を図る。

(ウ) 産業高度化・事業革新促進地域制度を活用して製品の開発力や技術の向上及び地域資源の活用による新事業の創出等を図る企業を支援するとともに、産業高度化または事業革新に取り組む企業の立地を促進し、地域産業の更なる振興を図る。

(エ) 観光地形成促進地域制度を活用し、観光関連施設等の整備を促進する。

② 農林水産業の振興と地域を支える担い手の育成・確保

主要品目であるきく、ゴーヤー、さやいんげん等の新たな拠点産地と既存産地の育成に重点的に取り組むとともに、アテモヤなど新規品目の拠点産地を形成し、生産体制の強化、ブランド化を図る。

さとうきびは、農家経済はもとより地域経済を支え、製糖を通して雇用機会を創出する基幹作物として持続的な振興を図る。

畜産については、肉用牛や養豚、ブロイラー経営が盛んな地域であり、関連産業の雇用機会を創出するため、更なる振興を図る。

また、きのこの等の安定供給による地域特産化に取り組み、販路の拡大を図る。

新規就業者や他産業からの離職就業者への就業相談等支援対策の強化や、農林漁業の技術取得の促進、耕作放棄地の解消などにより新たな雇用の場を創出し、担い手の育成・確保に努める。さらに、農林漁業経営に積極的に参画する女性農林漁業者及び起業者を育成し、農山漁村の男女共同参画社会づくりを促進する。

また、観光・リゾート産業等と連携したグリーン・ツーリズム、森林ツーリズム等や地域資源を活用した6次産業化を推進するなど、やんばるの豊かな自然と調和した多彩な農林水産業の振興を図る。

③ 職業能力開発の推進

民間教育機関等を活用した委託訓練を機動的に実施するとともに、情報通信産業、金融関連産業、観光関連産業等の県の重点分野の産業振興のために産学連携による人材育成を支援するなど、職業能力開発に関する地域ニーズへの対応や誘致企業や地元企業の事業展開を担う人材の育成・確保に努める。

④ 求職者の就職の促進

地域巡回密着型の合同企業説明会・面接会等を開催し、地域雇用の掘り起こしやマッチングを促進し、求職者の円滑な就職の促進に努める。

⑤ 事業主への支援

雇用に際して活用できる各種助成制度等の活用促進を図るため、国や県等の公的団体が実施している雇用支援制度の情報を一元化して、事業主に対する最も適した雇用支援制度の取扱機関を案内するとともに、地域密着型の企業説明会・合同説明会において、求人手続支援を行うなど、きめ細やかな支援を行う。

V 地域雇用開発計画期間

本計画の計画期間は、平成25年10月1日から平成28年9月30日までとする。